



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2021年
No.6
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

投与量・用法



事例

【事例の詳細】

70歳代の患者に、リベルサス錠7mg 1日1回1錠朝食後が処方された。リベルサス錠は1日1回3mgから開始する薬剤であるため、服用歴を確認したが、当薬局の薬剤服用歴と患者のお薬手帳にはリベルサス錠の記載はなかった。処方医に連絡し、リベルサス錠は1日1回3mgから開始し、4週間以上投与した後に7mgに増量する薬剤であることを伝えた。その結果、今まで服用していたジャヌビア錠50mgからリベルサス錠への変更で、リベルサス錠の処方初めてであることが分かり、リベルサス錠3mg 1日1回1錠へ変更になった。また、リベルサス錠は1日のうちの最初の食事又は飲水の前に、空腹の状態です服用する薬剤であるため、朝食前30分の服用に変更になった。

【推定される要因】

処方医のリベルサス錠に関する知識が不足していたと思われる。

【薬局での取り組み】

患者から服薬情報等の聴き取りを行うとともに、お薬手帳や薬剤服用歴を確認する。少しでも気になる点があれば処方医に確認する。



その他の情報

リベルサス錠3mg/7mg/14mgの添付文書（一部抜粋）

6. 用法及び用量

通常、成人には、セマグルチド（遺伝子組換え）として1日1回7mgを維持用量とし経口投与する。ただし、1日1回3mgから開始し、4週間以上投与した後、1日1回7mgに増量する。

7. 用法及び用量に関連する注意

7.1 本剤の吸収は胃の内容物により低下することから、本剤は、1日のうちの最初の食事又は飲水の前に、空腹の状態でコップ約半分の水（約120mL以下）とともに3mg錠、7mg錠又は14mg錠を1錠服用すること。また、服用時及び服用後少なくとも30分は、飲食及び他の薬剤の経口摂取を避けること。分割・粉砕及びかみ砕いて服用してはならない。



事例のポイント

- リベルサス錠3mg/7mg/14mgは2021年2月に販売開始になった2型糖尿病治療剤で、GLP-1受容体作動薬として初の経口剤である。
- 新医薬品*が処方された際は、添付文書やインタビューフォーム、製薬企業からの情報などを収集し、薬剤の特徴や使用上の注意を把握したうえで調剤する必要がある。
※「新医薬品」とは、医薬品医療機器等法第十四条の四に定められる既に承認を与えられている医薬品と有効成分、分量、用法、用量、効能、効果等が明らかに異なる医薬品であり、主に、新有効成分含有医薬品、新医療用配合剤、新投与経路医薬品、新効能医薬品、新剤型医薬品、新用量医薬品などである。
<https://www.pmda.go.jp/review-services/drug-reviews/about-reviews/p-drugs/0021.html>
- 服薬するタイミングに注意が必要な薬剤を交付する際は、患者に丁寧な説明を行う必要があり、製薬企業が提供している患者向け指導箋などの活用が有用である。
<参考>リベルサス®錠を服用される方へ
https://www.msconnect.jp/static/mcijapan/pdf/rybelsus_productassistance_001.pdf
- 薬剤交付後は、患者の服薬状況を確認し、指示された方法で服薬することが難しい場合は患者に合わせた飲み方を指導するなどのフォローを行う。コンプライアンスの改善が見られない場合は、処方医へ用法変更や薬剤変更の提案を行うなどの対応が望ましい。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。